

小学校算数について

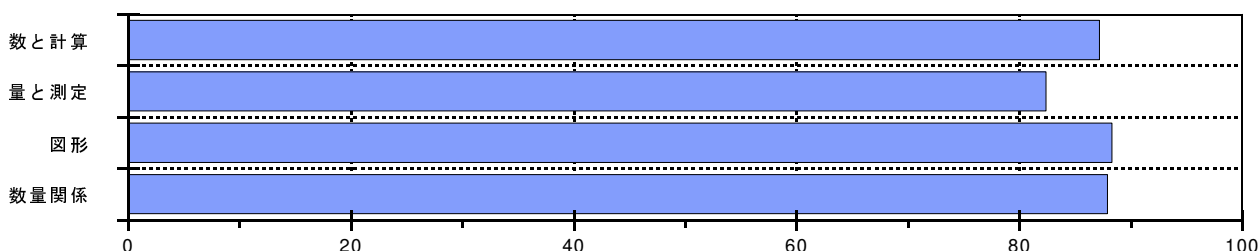
※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

算数A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、4領域とも80%以上の平均正答率を示しています。特に、「数と計算」「図形」「数量関係」領域においては、90%に近い平均正答率を示すなど、弱点とされていた乗除先行の四則混合算を含む計算領域の向上が伺われます。

今後の指導にあたっては、「計算順序等のきまりを理解し正しく計算できるよう、基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図ること」や「図形の求積に対して必要な情報等を色分けしたりする指導の工夫により、公式の活用の徹底を図ること」等を日常的な指導に生かすことがより一層必要になります。

算数 A



【数の表現】

位取りの考えを基に、数を表すことや数の大小を判断することについては、正答率も高くよく定着しています。数直線との関連を図りながら、十進位取り記数法に基づいて数を表すことについては、大きな数のみならず小数と分数の関係の指導においても引き続き指導を進めることが大切です。

【重さ、時間】

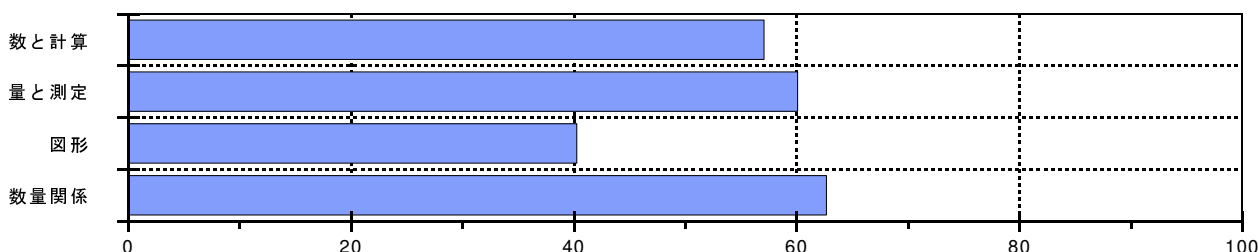
はかりの目盛りを読んだり、時計の図から時間を求めることについては、数直線と相互に関連させながら指導に生かすことが大切です。数直線の指導においては、最小目盛りの大きさが異なる場合の読み取りを多く取り入れ、はかりや時計などの目盛りと関連付けて指導することが大切です。

算数B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、「数と計算」「量と測定」「数量関係」では、60%程度の平均正答率を示しています。しかし、「図形」領域においては、40%程度の平均正答率で課題が残りました。

今後の指導にあたっては、「何について述べているのか」「なぜそう言えるのか」等、対象に応じて必要な数値や式等の情報を的確に使って、根拠を明らかにして説明できるように、日常的に意識した指導の工夫改善が必要になります。

算数 B



【操作の意味・意図の解釈と図形の判断】

紙を折ってできる図形の判断については、大きな課題が残ります。一番の要因は、適切な算数の用語を使って表現されていないことです。「1辺の長さが□cmの正方形」というような、定義等の基本的表現方法等の指導を再確認する必要があります。

【資料の数学的な解釈と判断の根拠の説明】

表を読み取り、適切にその根拠を表現することに課題が残ります。計算結果に頼らず、数や量の大小を判断することは、図やグラフ、表の算数的なよさであり、活用という視点においても、欠くことのできない重要な指導のポイントです。

中学校数学について

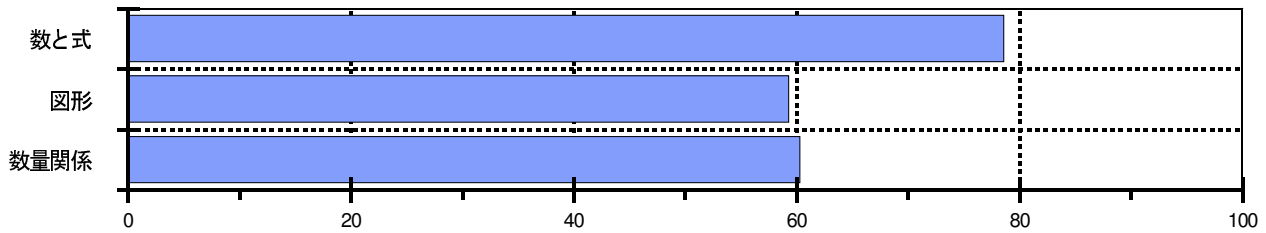
※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

数学A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、「数と式」領域においては、80%に近い平均正答率を示しています。しかし、「図形」「数量関係」領域においては、60%程度の平均正答率と課題が残ります。

今後の指導にあたっては、「具体物を活用した指導により、実感を伴って図形の性質等が理解できるようにすること」や「式とグラフの特徴について、それらを関連させて相互に意味理解を深めること」などが必要です。

数学A



【平行四辺形になるための根拠となる事柄】

「平行四辺形になるための条件」等逆思考の問いについて課題が残ります。具体物を用意するなどして、操作しながら平行四辺形の性質を指摘したり、平行四辺形になるための条件を確認したりする活動は、内容を的確に把握する上で重要です。

【関数関係の判断】

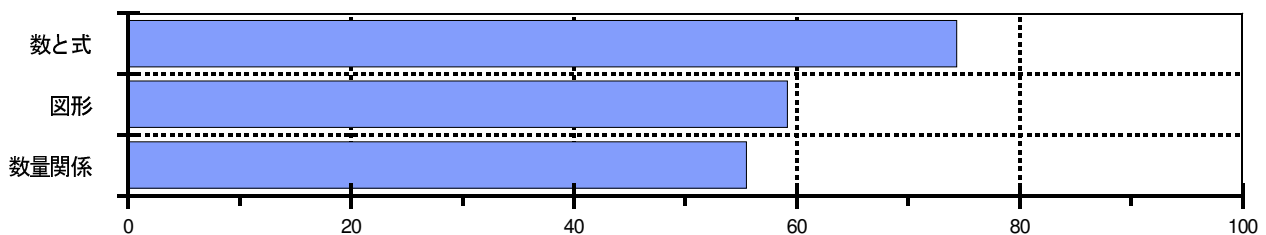
関数関係において、比例、反比例、一次関数のいずれかを判断することについて理解が不十分です。「 $y = ax$ 、 $y = ax + b$ 」の式と「 y は x に比例する」の意味付け等の指導については、その都度学び直しの機会を設定して再確認する必要があります。

数学B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、「数と式」領域においては、70%を超える平均正答率を示しています。しかし、「図形」「数量関係」領域においては、60%に満たない平均正答率となり、課題が残ります。

今後の指導にあたっては、根拠を明確にして説明したり、友達の考えを自分なりに解釈する場面を設定したりしながら表現力の育成を図る必要があります。また、身近な日常生活場面における活用や発展的な学習等の支援も大切になります。

数学B



【図形的に解釈し発展的に考えること】

問題③のように、「タレスの方法」を理解し、数学的に解釈したり、数学的に説明したりする問題について課題が残ります。他者の考えを解釈して論理的に説明する力を身に付けるためには、継続的な経験や体験も大切になります。「なぜそうなるのか」「本当にそれでいいのか」と問い続けながら、学び合いの充実を図ることが必要です。

【情報の適切な選択と判断】

ヒストグラムを比較して特徴を読み取るなど、資料を目的に応じて適切に解釈することに課題が残ります。資料考察の判断理由を数学的な表現を用いてまとめるレポート課題や目的に応じて資料を収集・整理し資料の傾向を発表し合う場面設定などが大切です。また、多様な情報の中から必要な情報を選択する経験も重要になります。